

都市再生整備計画(第6回変更)

よこはまえきしゅうへん
横浜駅周辺地区

神奈川県 よこはま
横浜市

平成22年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	横浜駅周辺地区	面積	131.2 ha
計画期間	平成 19 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 19 年度 ~ 平成 22 年度				

目標 ・便利で快適なターミナルの街、交通結節点の形成を図る。 ・歩行者の回遊性の向上と駅東西地区の一体化を進める。 ・駅周辺に展開する商業業務機能の商圏拡大を図りつつ、これまで鉄道敷地により地域分断されていた隣接開発地区や既成市街地との接続強化を図り、駅勢圏の拡大を図る。
--

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 横浜駅は、鉄道5社7路線が乗り入れ、1日あたり約200万人の乗降客が利用している。また、駅東西の駅前広場周辺地区には、大型商業施設やホテルなどが立地し、鉄道やバス、タクシー等により多くの市民が集う市内で最大のターミナルとなっている。 駅利用者は、鉄道、バスの乗り継ぎ・乗り換えや駅東西間の通行のために、現在ある横浜駅中央自由通路に集中し、朝夕の通勤、通学時間帯や休日には混雑が激しく、安全かつ快適な歩行者空間が十分確保できない状況にある。このような状況のもと、横浜駅では平成16年1月に「みなとみらい線」が乗り入れる一方で、隣接するみなとみらい21地区やヨコハマポートサイド地区では土地区画整理事業や再開発事業の大規模開発が進められており、今後ますます利用者の増加が見込まれている。 このため、鉄道、バスターミナル、タクシープール間の移動の連続性を高め、駅東西地区間の連絡性・回遊性などの向上を図り、歩行者の利便性の強化など「交通網の整備改善等に伴う地域づくり」が求められている。 また、横浜駅周辺地区に展開する商業業務機能の集積を活かしつつ、さらに横浜都心部全体の一体化や拡大強化により都市活動や、経済の再生を図っていくためには、横浜駅と周辺地区との連絡強化により、駅を中心とする日常商圏の拡大を図っていく必要があり、これまで鉄道高架や河川等で分断されていた地域を一体化していく必要がある。
課題 ・横浜駅周辺地区においては、鉄道敷地が地域分断や周辺土地利用の促進を妨げる要因となっており、商圏拡大の阻害要因となっている。 ・この点で、東横線の地下化に伴う跡地の活用は、都心部における土地の有効活用のみならず、これまでの地域分断要因の解消や、駅直近でありながら低密利用となっていた地区の発展を促し、駅を中心とする都心の拡大強化を図る上で有効である。 ・このため、駅東西の一体化と回遊性の向上を図るために進めている南北通路や関連事業である東西自由通路の整備と併せ、駅周辺地区を含めた駅勢圏の拡大強化に寄与するものとして、横浜駅周辺地区整備の一環として、鉄道跡地の活用を一体的に推進していくことが必要である。
将来ビジョン(中長期) 横浜都心部全体の玄関口として、首都圏でも有数の交通拠点として発達してきた横浜駅周辺地域において、その優れた立地特性を生かし、多様な機能が集積した魅力と賑わいのある広域中枢拠点を形成する。

目標を定量化する指標								
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値		
					基準年度		目標年度	
横浜駅構内通路の混雑の緩和	人/m・分	朝ラッシュ時における横浜駅構内通路のサービス水準	自由通路の整備により混雑を緩和する	65人/m・分	H18	30人/m・分	H22	
ボランティア参加人数	人/年	緑道管理等におけるボランティア参加人数	緑道を、地域住民による自主的・持続的な運営管理を行い、安心して楽しめる緑道の魅力を高めていくため、緑道の安全性や利便性の向上を図る。	80人/年	H18	170人/年	H22	
イベント開催	回/年	緑道内で行われるイベント開催の回数	地下化された鉄道敷き跡地に緑道を整備することで、明るく利用しやすい環境を造り出し、活発な市民交流を通じた地域の活性化を図る。	0回/年	H18	3回/年	H22	

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道によって分断されている横浜駅南部地区の駅東西間の連絡の確保と同時に進められている南北連絡通路および関連事業が進められている北部自由通路の整備により、横浜駅東西地区間の連絡性・回遊性・利便性などが強化する。 ・中央通路と南部自由通路を接続し、相模鉄道改札口の乗換動線の分散を促すとともに、回遊性、歩行者通路空間の快適性や利便性の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南部自由通路整備事業 ・E通路整備事業
<ul style="list-style-type: none"> ・横浜駅周辺地区において、東横線地下化区間(東白楽～横浜駅間)の跡地利用は、歩行者の回遊性・利便性の向上、横浜駅を中心とする駅勢圏の拡大強化、並びに都市環境の改善を図る上で有効であることから、周辺の歩行者系プロムナードとのネットワークの形成を図りつつ、緑道として整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反町横浜緑道
<ul style="list-style-type: none"> ・水と緑の拠点を結ぶネットワークの形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・滝の川せせらぎ緑道
<p>その他</p>	

都市再生整備計画の区域

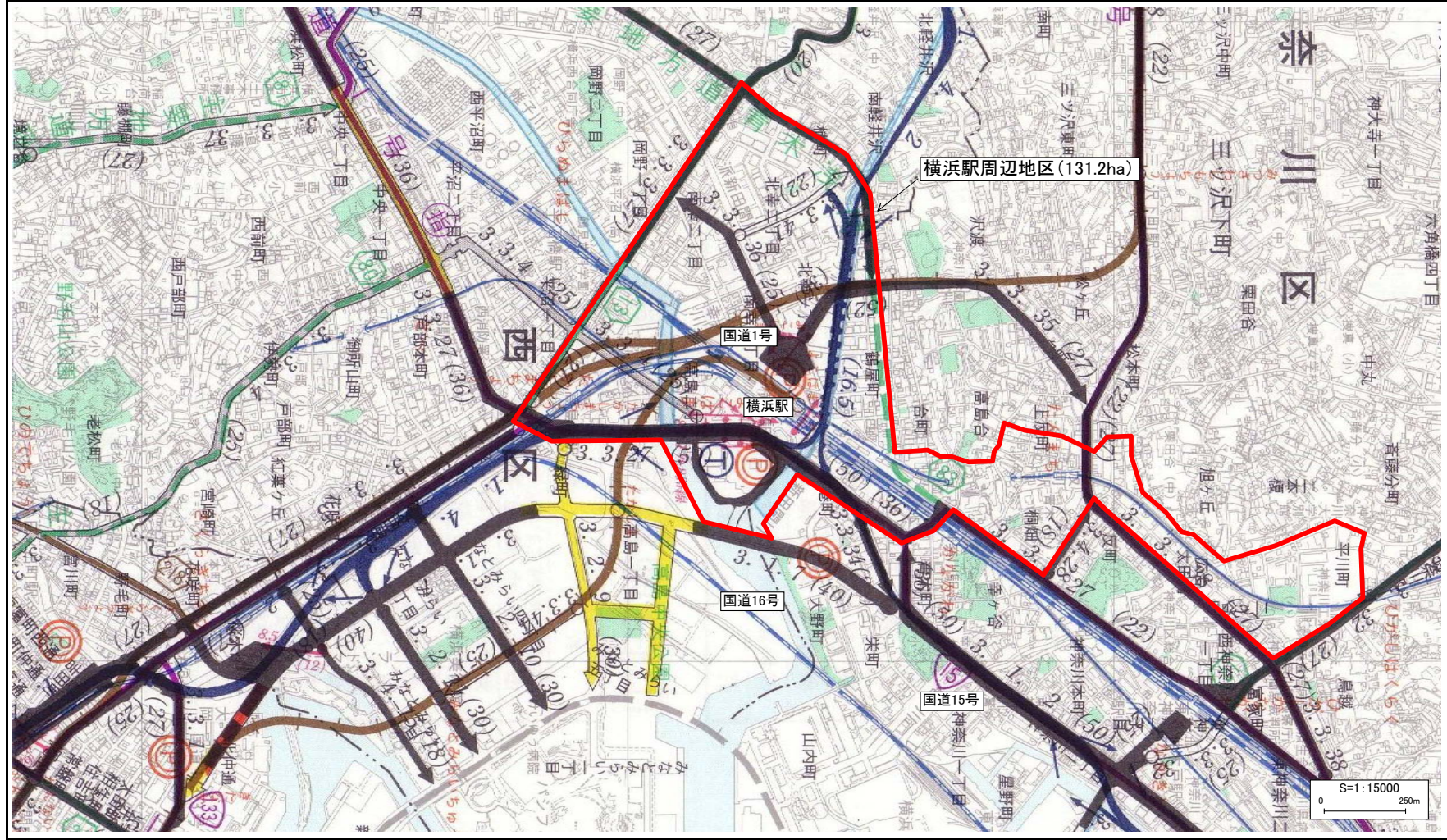
横浜駅周辺地区(神奈川県横浜市)

面積

131.2 ha

区域

横浜市区西、神奈川区



横浜駅周辺地区(神奈川県横浜市) 整備方針概要図

目標	・便利で快適なターミナルの街、交通結節点の形成を図る。	代表的な指標	横浜駅構内通路の混雑の緩和 (サービス水準)	65人/m ² 分 (18年度) → 30人/m ² 分 (22年度)
	・歩行者の回遊性の向上と駅東西地区の一体化を進める。		ボランティア参加人数 (参加人数)	80人/年 (18年度) → 170人/年 (22年度)
	・駅周辺に展開する商業業務機能の商圏拡大を図りつつ、これまで鉄道敷地により地域分断されていた隣接開発地区や既成市街地との接続強化を図り、駅勢圏の拡大を図る。		イベント開催 (回/年)	0回/年 (18年度) → 3回/年 (22年度)

